

続澄江堂雜記

芥川龍之介

青空文庫

一 夏目先生の書

僕にも時々夏目先生の書を鑑定してくれろと言ふ人がある。が、僕の眼光ではどうも判然とは鑑定出来ない、唯まつ赤な贗せものだけはおのづから正体を現はしてくれる。僕は近頃その贗せものの中に決して贗にもものとは思はれぬ一本の扇に遭遇した。成程この扇に書いてある句は漱石と言ふ名はついてゐても、確かに夏目先生の書いたものではない。しかし又句がらや書体から見れば、夏目先生の贗せものを作る為に書いたのではないことも確かである。この漱石とは何ものであらうか？ 太白堂三世村田桃鄰も始めの名はやはり漱石である。けれども僕の見た扇はさほど古いものとも思はれない。僕はこの贗せものならざるに贗せものと呼ばれる扇の筆者を如何にも気の毒に思つてゐる。因

に言ふ、夏目先生の書にも近年はめつきり贗せものが殖えたらしい。(大正十四年十月二十日)

二 霜の来る前

毎日庭を眺めてゐると、昔こけの最も美しいのは霜しもの来る前、——まづ十月一ぱいである。それから霜の来る前に「カナメモチ」や「モツコク」などの赤々と芽をふいてゐるのは美しいよりも寧むしろもの哀れでならぬ。(同年十一月十日)

三 澄江堂

僕になぜ澄江堂ちようかうだうなどと号するかと尋ねる人がある。なぜと言ふほどの因縁いんねんはない。唯いつか漫然と澄江堂と号してしまつたのである。いつか佐佐木茂索君は「スミエと言ふ芸者ほに惚ほれたんですか？」と言つた。が、勿論もちろんそんな訣わけでもない。僕は時々本名ほんみやうの外ほかに入らざる名などをつけることはよせば好かつたと思つてゐる。(十一月十二日)

四 雅号

しかし雅号ががうと言ふものはやはり作品と同じやうにその人の個性を示すものである。菱ひしだ

田春草は年少時代には駿走の号を用ひてゐた。年少時代の春草は定めし駿走らしかつたであらう。さう言へば正宗白鳥氏も昔は白塚と号してゐたかと思ふ。これは僕の記憶違ひかも知れない。が、若し違つてゐないとすれば、この号も兎に角年少時代の正宗氏を想はせるのに足るものであらう。僕は昔の文人たちの雅号を幾つも持つてゐたのは必しも道楽に拵へたのではない。彼等の趣味の進歩に応じておのづから出来たものと思つてゐる。(同前)

五 シルレルの頭蓋骨

シルレルの遺骸は彼の歿年、——千八百五年以来、ちやんとワイマアルの大公爵家の霊廟の中に収められてゐた。が、二十年ばかりたつた後、その霊廟を再建する際に頭蓋骨だけゲエテに贈ることになつた。ゲエテは彼の机の上にこの旧友の頭蓋骨を置き、「シルレル」と題する詩を作つた。そればかりではない。エエベルラインなどは御苦勞にも「シルレルの頭蓋骨を見守れるゲエテ」とか何とか言ふ半身像を作つた。けれどもこれはシルレルではない、誰か他の人の頭蓋骨だつた。(ほんたうのシルレルの頭蓋骨はやつ

と近年テウビンゲンの解剖学かいぼうがくの教授に発見された。僕はかう言ふ話を読み、悪魔のいたづらを見たやうに感じた。他人の頭蓋骨に感激したゲエテは勿論滑稽こっけいに見えるであらう。しかしその頭蓋骨がなかつたとしたらば、ゲエテ詩集は少くとも「シルレル」の一篇を欠いてゐたのである。(十一月二十日)

六 美人禍

ゲエテをワイマアルの宮廷から退しりぞかせたのはフォン・ハイゲンドルフ夫人である。しかも又シヨオペンハウエルに一世一代の恋歌れんかを作らせたのもやはりこのフォン・ハイゲンドルフ夫人である。前者に反感を抱いた女性むすめは彼女の外ほかになかつたらしい。後者に好感を与へたのは勿論彼女一人である。兎とに角かく両天才を悩ませただけでも、ただの女ではなかつたのであらう。現に写真ちやうに徴ちやうすると、目の大きい、鼻とがの尖つた、如何いかにも一癖ありげな美人である。(二十一日)

七 放心

僕は教師をしてゐた頃、ネクタイをするのを忘れたまま、澄まして往來わうらいを歩いてゐた。それを幸ひにも見つけてくれたのは当年の菅忠雄君すがただをである。しかしその後学校のちへ行つたら、今度は物理の教官ひとりが一人、カラアをつけるのを忘れたと見え、ネクタイだけシャツにぶら下げてゐた。どちらがはた目には可笑をかしかつたかしら。(二十二日)

八 同上

僕は菊池きくちと長崎へ行つた時、汽車中大いに文芸論をした。そのうちにふと気がついて見ると、菊池はいつか両手の間にパラソルを一本まはしてゐる。僕は勿論「おい、君」と言つた。すると菊池は苦笑くせうしながら、鄰となりにゐた奥さんにパラソルを返した。僕は早速文芸論の代りに菊池きくちの放心を攻撃した。菊池の降参したのはこの時だけである。が、長崎を立つ段になると、僕自身うっかり上野屋うへのやへ雨外套あまくわいたうを忘れて来てしまつた。菊池の嬉しがるまいことか、忌々いまいましくも大笑ひをして曰いはく、「君も亦細心またさいしんは誇れないね。」(同上)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

続澄江堂雑記

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>